

# 平成26年度病害虫発生予報第12号

平成27年3月2日  
愛知 県

## 普通作物

### ・留意事項

排水不良はムギ類の赤かび病の発生を助長するので、今のうちに排水溝の手入れなどを実施しましょう。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	多い	県全域	前年秋期の発生量はやや多い 2月のりん片発病率は高い 3月の降水量は平年並か多い	＋ ＋ ±～＋
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	前年秋期の発生量は多い 3月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並	±

### ・防除対策

#### 〔ナシ・黒星病〕

発芽前までに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、りん片発病芽は見つけ次第除去し、I C ボルドー48Qやデランフロアブルなどでりん片脱落期に防除しましょう。

なお、葉害の心配があるので、石灰硫黄合剤とI C ボルドー48Qの散布間隔は2週間以上空けるようにしましょう。

#### 〔モモ・せん孔細菌病〕

春型枝病斑は見つけ次第切り取って除去しましょう。カスミンボルドーやI C ボルドー412などで開花直前に防除しましょう。

### ・留意事項

前年秋にフジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、越冬虫数が多くなっていると予想します。発芽前にマシン油乳剤で防除しましょう。

ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生が多いほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

春先は寒暖の差が大きいので、果樹の生育ステージに留意した栽培管理や防除を心がけましょう。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は平年並か高い 3月の降水量は平年並か多い	± ±～+ ±～+
	べと病	平年並	県全域	2月下旬現在発生を認めていない(平年並) 3月の気温は平年並か高い 3月の降水量は平年並か多い	± ±～+ ±～+
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	葉かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	ハモグリバエ類	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない	—
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+
	すすかび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は平年並か高い	± ±～+
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+
	うどんこ病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない	-
	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は平年並か高い	± ±～+
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の気温は平年並か高い	+ ±～+

### ・防除対策

#### 〔ナス（施設）・灰色かび病〕

発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、アフエットフロアブルやベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

#### 〔ナス（施設）・すすかび病〕

換気を十分に行い、必要以上に湿度を上げないようにしましょう。また、肥料切れに注意しましょう。アフエットフロアブル、トリフミン水和剤やベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

#### 〔キュウリ（施設）・べと病〕

過剰なかん水を避け、換気を十分に行い、必要以上に湿度を上げないようにしましょう。また、肥料切れに注意しましょう。ランマンフロアブルやザンプロDMフロアブルなどで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮し農薬を選びましょう。

#### 〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、アフエットフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

#### 〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

12月1日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

### ・留意事項

タマネギ白色疫病は、気温が上昇し降雨が増えると蔓延するおそれがありますので注意しましょう。

コナガの発生量は前年に比べるとやや少ない状況ですが、前年の同時期には発生が認められなかった地域でも生息を認めています。収穫終了後は速やかに残さをすき込み、発生源とならないようにしましょう。

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが、気温の上昇に伴い増殖しやすくなります。黄色粘着板などを設置して発生状況に注意し、発生量が多くなる前に防除しましょう。

イチゴでアザミウマ類の発生を認めています。例年、気温が上昇する3月から発生が増加します。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮し農薬を選びましょう。

## 花き

### ・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病やウイルス病などが発生していない親株から穂を採りましょう。

### 参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台2月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

### 「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。